

## 武田 典久 議員



録画  
配信中



### 一問一答方式

- ① コミュニケーションと市民参加について
- ② 独居高齢者支援
- ③ 肱川治水

### コミュニケーションと市民参加について

**問** 社会変化に伴い多様化するニーズには行政のみでは対応できないため、市民との協働が必要だとよく言われる。

地域の力、市民の力、NPOをはじめ各種団体や事業者の力を上手に引き出しながら、行政課題や地域課題を解決していく必要があると思う。市民参加、協働の推進を図るための計画が必要だと考えるがいかがか。

### 答

私たちが取り巻く環境やニーズが大きく変化する中、行政にも新しい役割や施策の展開が求められており、これまでのように行政だけで解決することが困難になっていきます。

地域課題の解決に向けた自治会との協働による取組を進めるとともに、専門的識見を持つ地域づくりに取り組んでいる各種団体の意見を市政に反映していくことの重要性を認識しており、市民とともに課題解決を目指して協働のまちづくりを進めていくために、対話のあり方、コミュニケーションのあり方を検討し、市民のご意見を施策に反映できるように努力したいと考えています。市民参加推進計画の策定予定は現時点ではありませんが、地域全体で協働、共創の意識を醸成していくことは大切です。

引き続き、市と自治会をはじめ各種団体や企業、そして市民がそれぞれの役割分担で、共に考え協力しながら、支え合い心豊かに暮らすことができる住みよい地域社会づくりに努めます。

### 独居高齢者支援について

**問** 生活支援体制整備事業で設置されるコーデイネーターは、高齢者のニーズと支援策のマッチングだけでなく、既存の地域資源のさらなる活用に向けた取組や新たな地域の担い手の発掘も期待されるが、限られた地域資源を有効活用することや、新たな担い手の確保を市としてどう考えるか。

**答** 日常生活上の支援が必要な高齢者が、可能な限り住み慣れた地域で生きがいを持って生活できるように、各地域内において様々な支え手による生活支援サービスの充実強化や高齢者の社会参加を図るため、平成28年度から取り組んでいる事業です。

3つの層から成る体制を想定しており、市全域の第1層、自治会または地区社協単位の第2層、地域内の小集落単位を第3層協議体と位置づけ、相互に連携、協働を図るものです。

設置済みの第1層協議体コーデイネーターとして社会福祉協議会内に1人配置し、今年度は新たに2人のコーデイネーターを配置して第2層

協議体を設置します。

限られた地域資源の有効活用は、本事業の推進上重要なものと捉えており、既存資源に加え、人だけでなく団体や事業者など新たな資源を発掘したいと考えています。

また、新たな担い手の確保は、この事業が持続するための重要な要素であり、高齢者でも支え手側になり得ること、どんな小さな支援であっても担い手になり得ることなどを発信しながら、新たな担い手を確保したいと考えています。

### 肱川治水について

**問** 山鳥坂ダム工事事務所から、ダム建設予定地の地質の関係で事業費と工期について変更が見込まれる旨の説明があったが、市としてどのように受け止めているか。

**答** 今回の発表で、山鳥坂ダムの完成時期が当初予定の令和8年度には困難になったことは大変残念に思っています。

肱川流域の治水安全度の向上には、山鳥坂ダムは必要不可欠と考えており、付け替え県道等の関連工事を含め、建設工事の早期完了を望んでいます。